# 唯一の被爆国として核兵器廃絶の先頭に

## 吹田で平和運動を大いに盛り上げて

**出席者**

熊谷 一会（いちえ）さん（吹田市保育士）
樋口 基子さん（吹田母親大会連絡会副委員長）
福井依智子さん（新日本婦人の会吹田支部事務局長）
福井 早苗さん（福井依智子さんの長女 大学一回生）
面屋（めんや） 敦子さん（吹田市学童保育指導員）

ホワイトハウス前で核兵器廃絶をアピールするNPT再検討会議参加者たち

### ニューヨークまで行かれた動機は？

**司会**　本日は、今年5月にアメリカのニューヨークで開催されたNPT再検討会議（注1）に参加された方々に集まっていただきました。まずはじめに、何でわざわざ（笑）ニューヨークまで行こうと思ったのか、その動機について聞きたいのですが。

### 積極的に平和運動に関わることが必要

**熊谷**　NPT再検討会議が開かれることを知ったのは、昨年広島で開催された原水爆禁止大会に参加したからです。そこで「来年はニューヨークで核兵器廃絶のための会議があるよ」と。

もともと戦争と平和に関して興味があったので、ベトナム戦争の跡地を巡ったり、戦前日本の731部隊が生体実験を繰り返してきた中国のハルピン近郊を旅したりしていたんです。

「まずは知ることが大事」と、戦争の負の遺産を見てきましたが、見るだけではダメ。積極的に平和運動に関わることが必要だろうと思いましたので、職場の方々に背中を押してもらい、ニューヨークに行くことにしたのです。

熊谷 一会さん

### 大阪で母親大会に関わってもう一度勇気をもらおうと

**樋口**　私はずっと大阪で母親大会（注2）に関わってきました。

初めて母親大会に参加したのは、私が24歳のときで第10回目の日本母親大会（東京）でした。

ビキニ水爆実験で死の灰を浴びた第5福竜丸の久保山愛吉さん、その未亡人であるすずさんが舞台で「原水爆の被害者はこれで最後にして」という訴えが胸に響きました。

実はこの時、私の命はあまり長くないと宣告されていたのです。結核でした。だから生命の問題には敏感で、核戦争から子どもを守る、核兵器は絶対に許してはならない、という平和運動に自然と入り込んでいきました。

樋口 基子さん

**（注1）NPT再検討会議とは**

NPT（核不拡散条約）は1968年に調印され、70年に発効。67年までに核兵器を製造・爆発させた5カ国（米国、ソ連、英国、フランス、中国）を「核兵器国」と規定して核保有を容認した条約です。

NPTは190カ国が加盟。北朝鮮は核実験をし、NPT脱退を表明（03年）しています。非加盟のイスラエル、インド、パキスタンが事実上の核保有国となっています。





その後吹田で40数年間、この母親運動に関わって、生きる力をもらってきました。NPT再検討会議がニューヨークで開かれると聞き、平和運動で勇気をもらい続けてきた私の人生だから、もう一度エネルギーをもらいに行こう、と思ったのです。

### 母から高校3年の時「ニューヨークに行かへん？」

**福井早苗**　母から「ニューヨークに行かへん？」と誘われたのは、まだ高校3年生で、受験中でした。大学では社会学部に進んで世の中の現実に起こっている問題を学ぼうと思っていたので、良い機会かな、と感じました。

吹田の山田高校の出身ですが、憲法の学習やイラク戦争など、社会の先生からいろいろと教わっていたので、基礎知識はあったのかな？

高校で「ニューヨークに行くねん。核兵器廃絶の署名して」と言うと、同級生も協力してくれました。

### 新婦人吹田支部の代表で核兵器廃絶で5千筆

**福井依智子**　NPT再検討会議は5年ごとに行われるでしょう。ですから05年、00年に参加された方の報告などを聞いていて、私も参加したいな、と思っていたのです。オバマ大統領がプラハで核兵器廃絶を訴える演説もあったので、今がチャンスなのではないか、と。今年は歴史的な大会になるかもしれないと思ったら、「その瞬間、現場にいたい」じゃないですか。新日本婦人の会吹田支部の代表として現地へ行くことになったので、署名集めをがんばりました。駅前はもちろん、吹田高校の正門前でも、核兵器廃絶を訴えて、5千筆も集めましたよ。

### 祖母が被爆者、「生きている者が平和運動をがんばらんなん」

**面屋**　吹田で学童保育の指導員をやっています。職場の先輩から「ニューヨークへ行かへんか」と誘われました。「飛行機落ちたらどうしよう」「テロが起こればどうなるかな」と、正直怖かったんです。だから「いつ断ろうかな？」（笑）と考えてました。悩んでいると、両親が「行ったらええやん」と背中を押してくれました。

実は私の親は二人とも広

福井 早苗さん

**（注2）母親大会とは**

日本母親大会連絡会は「生命（いのち）を生みだす母親は、生命を育て、生命を守ることをのぞみます」をスローガンに母親・女性の願いをたばねて草の根の運動を展開。母親運動は54年アメリカのビキニ水爆実験に反対し、平和を求める世論の中から生まれました。第1回母親大会は、平塚らいてうらの呼びかけで1955年に開かれ、今年で56回目を迎えます。各都道府県から地域別市町村別の集会までふくめると、毎年春から秋にかけての「母親」の集いはおびただしい数にのぼります。